

事務事業名		最終処分事業			☐ 実施計画登載事業		☐ 合併建設計画登載事業				
政策体系	政策名	02自然豊かな環境の保全と創造			事業期間		予算科目				
	施策名	06廃棄物処理対策の推進					会計	款	項	目	事業
	基本事業名	01ごみの適正処理とリサイクルの推進					04	03	01	01	02
根拠法令		廃棄物の処理及び清掃に関する法律									
所属	部課名	大船渡地区環境衛生組合									
	課長名	安田由紀男(事務局長)									
	係名	総務係	電話	26-4739							
	担当者	佐々木卓也	内線	434							
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)					全体計画(※期間限定複数年度のみ)						
岩手沿岸南部クリーンセンターで溶融処理後のBF灰を、住田町大平の最終処分場へ埋め立てする事業。 主な業務は、BF灰の適切な埋立処分、定期的な設備の保守点検を行う。また、処理水の水質検査を定期的に行い、放流先河川の水質を健全な状態に保つ。 事業費は、堰堤工事費、水質検査費、重機維持費、薬品代等に支出される。					総 投 入 量 (千円)	事業費	財 源 内 訳	国庫支出金			
								都道府県支出金			
								地方債			
								その他			
								一般財源			
								事業費計(A)		0	
人件費	正規職員従事人数										
	延べ業務時間										
	人件費計(B)		0								
	トータルコスト(A)+(B)		0								

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標										
① 手段(主な活動) 前年度実績(前年度に行った主な活動) BF灰の埋立処分、設備の保守点検、処理水の水質検査 今年度計画(今年度に計画している主な活動)			⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)							
			名称						単位	
			ア	埋立量					トン	
② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等 最終処分場、埋立物、浸出水、下流域住民			イ	水質検査回数					回	
			ウ							
			⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)							
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか) 適切な最終処分処理ができる。			名称						単位	
			カ	最終処分場施設面積					m ²	
			キ	埋立容量					m ³	
④ 結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか) 発生したごみを適正に処理する。			ク							
			⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)							
			名称						単位	
			サ	適正処理された埋立物の割合					%	
			シ	放流水の水質基準適合率					%	
			ス							
(2) 総事業費・指標等の推移										
			単位	年度	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(目標)	27年度(目標)	28年度(目標)
投入量	事業費	国庫支出金	千円							
		都道府県支出金	千円							
		地方債	千円							
		その他	千円							
		一般財源	千円	9,481	9,503	30,088	10,000	10,000	10,000	
		事業費計(A)	千円	9,481	9,503	30,088	10,000	10,000	10,000	
	人件費	正規職員従事人数	人	1	2	2	2	2	2	
		延べ業務時間	時間	1,300	2,600	2,600	2,600	2,600	2,600	2,600
		人件費計(B)	千円	5,200	10,400	10,400	10,400	10,400	10,400	10,400
		トータルコスト(A)+(B)	千円	14,681	19,903	40,488	20,400	20,400	20,400	
⑤活動指標		ア	トン	1,569	1,271	1,062	1,569	1,569	1,569	
		イ	回	12	12	12	12	12	12	
		ウ								
⑥対象指標		カ	m ²	6,800	6,800	6,800	6,800	6,800	6,800	
		キ	m ³	58,000	58,000	58,000	58,000	58,000	58,000	
		ク								
⑦成果指標		サ	%	100	100	100	100	100	100	
		シ	%	100	100	100	100	100	100	
		ス								

事務事業ID	1084	事務事業名	最終処分事業
--------	------	-------	--------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等			
① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？ 平成8年に、ごみの溶融処理によって排出された溶融灰を処分すること、不燃ごみの破碎残渣埋立処理する施設として設置した。なお、現在は、破碎残渣は埋立処理していない。			
② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは前期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？ 平成23年度から岩手沿岸南部クリーンセンターで溶融処理を行っており、当施設で焼却を行っていた時期に比べ、灰の排出量は減少した(溶融処理自体は平成12年度より開始している)。また、下流域住民の生活水確保のため取水施設を新設したが、現状は当初の計画どおりに機能していない。			
③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？ 施設の維持管理に関する意見・要望は特にない。関連として、下流域住民から取水施設の機能(能力)向上や連絡道路の維持管理要望がある。			

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は当市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 結びついている ⇒【理由】 ごみの適正処理、BF灰の適正な処分を行うことにより、住民生活の環境保全につながる。	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を当市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 妥当である ⇒【理由】 自治体の責務として法に定められている。	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 適切である ⇒【理由】 廃棄物の埋立及びそれに伴う周辺河川の水質汚染を防止するために、適正なごみ処理を行う設備(施設)である。	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
有効性 評価	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	☐ 向上余地がある ⇒【理由】 ☒ 向上余地がない ⇒【理由】 現地点において適正に処理されている。	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	☐ 影響無 ⇒【理由】 ☒ 影響有 ⇒【その内容】 廃止・休止をした場合、BF灰及び不燃ごみ破碎残渣の処分地を閉鎖することになり環境悪化につながる。また、下流域住民の生活水の安全確保が図られない。	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☒ 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) ごみ収集・処理事業との連携 ☒ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 ごみ収集・処理事業との連携だが、ごみの収集から最終処分場までの工程は一連であるので統合できるとと思われる。 ☐ 他に手段がない ⇒【理由】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 当該事業において不要な業務は行っていないので事業費の削減はできない。	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずにより正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 限られた人員の中、中間処理と最終処分場の職員は兼務で業務にあたっている。また、下流域住民への水源問題の観点からも管理を委託せず、正規職員のもとで委託業者等が保守点検を行うことが望ましい。	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 適正である。	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映

事務事業ID	1084	事務事業名	最終処分事業
--------	------	-------	--------

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果 (2枚目と整合を図ること)	(2) 全体総括(振り返り、反省点)																							
<table><tr><td>① 目的妥当性</td><td>☒ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr><tr><td>② 有効性</td><td>☐ 適切</td><td>☒ 見直し余地あり</td></tr><tr><td>③ 効率性</td><td>☒ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr><tr><td>④ 公平性</td><td>☒ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr></table>	① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	② 有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり	③ 効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	目的妥当性・効率性・公平性において適切である。なお、他の事業と統合できるのであれば、より一連の業務を統括した見方ができるのではないかとと思うが、安易に判断しないよう熟考していくことが大事である。 震災の発生による、処分場の設備に大きな被害はなかったため、震災前と同様、飛灰や不燃残渣の埋立や排水等の処理を適切に行っている。											
① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																						
② 有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり																						
③ 効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																						
④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																						
(3) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可)	(4) 改革・改善による期待成果																							
<table><tr><td>☐ 廃止</td><td>☐ 休止</td><td>☐ 目的再設定</td><td>☐ 事業統合・連携</td><td>☒ 現状維持</td></tr><tr><td colspan="5">事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善)</td></tr></table> (上記方向性に対する具体的な内容) 市民にわかりやすい評価と予算執行を重視して、ごみ収集・処理事業とはあえて分けて評価する。	☐ 廃止	☐ 休止	☐ 目的再設定	☐ 事業統合・連携	☒ 現状維持	事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善)					左記(3)の改革改善案を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要)													
☐ 廃止	☐ 休止	☐ 目的再設定	☐ 事業統合・連携	☒ 現状維持																				
事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善)																								
<table><tr><td></td><td></td><td colspan="3">コスト</td></tr><tr><td></td><td></td><td>削減</td><td>維持</td><td>増加</td></tr><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td>●</td><td>×</td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td>×</td><td>×</td></tr></table>				コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持		●	×	低下		×	×
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持		●	×																				
	低下		×	×																				
(5) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等																								
統合することの良し悪しを慎重に検討すべき。																								

4 事務事業の2次評価結果	(職 名) ※原則として施策の主管課長	(氏 名)
2次評価者	事務局長	安田由紀男

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合																								
①記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択)																								
☐ 記述不足でわかりにくい																								
☐ 一部記述不足のところがある																								
☒ 記述は十分なされている																								
②評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択)																								
☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されてない)																								
☐ 一部に客観性を欠いたところがある																								
☒ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)																								
(2) 2次評価者としての評価結果	(3) 評価結果の根拠と理由																							
<table><tr><td>① 目的妥当性</td><td>☒ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr><tr><td>② 有効性</td><td>☒ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr><tr><td>③ 効率性</td><td>☒ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr><tr><td>④ 公平性</td><td>☒ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr></table>	① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	② 有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	③ 効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	・現状把握が適切に行われており、一次評価は妥当と認められる。 ・今後とも、処分場の延命化を図るとともに、施設及び設備を適切に管理していく必要がある。											
① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																						
② 有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																						
③ 効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																						
④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																						
(4) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可)	(5) 改革・改善による期待成果																							
<table><tr><td>☐ 廃止</td><td>☐ 休止</td><td>☐ 目的再設定</td><td>☐ 事業統合・連携</td><td>☒ 現状維持</td></tr><tr><td colspan="5">事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善)</td></tr></table> (上記方向性に対する具体的な内容) 現状を維持しながら、施設及び設備の延命化を図っていく。	☐ 廃止	☐ 休止	☐ 目的再設定	☐ 事業統合・連携	☒ 現状維持	事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善)					左記(4)により期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。また、1次評価と内容が異なる場合には、1次評価の結果も「○」で記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要)													
☐ 廃止	☐ 休止	☐ 目的再設定	☐ 事業統合・連携	☒ 現状維持																				
事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善)																								
<table><tr><td></td><td></td><td colspan="3">コスト</td></tr><tr><td></td><td></td><td>削減</td><td>維持</td><td>増加</td></tr><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td>●</td><td>×</td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td>×</td><td>×</td></tr></table>				コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持		●	×	低下		×	×
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持		●	×																				
	低下		×	×																				

5 最終評価結果

(1) 行政経営推進会議等での指摘事項